

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	鹿児島県指定 第4670300526号
法人名	有限会社 鹿屋介護サービスセンター
事業所名	グループホーム ゆうきの里
訪問調査日	平成 21 年 12 月 22 日
評価確定日	平成 22 年 1 月 16 日
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年1月8日

## 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670300526号		
法人名	有限会社 鹿屋介護サービスセンター		
事業所名	グループホーム ゆうきの里		
所在地	鹿児島県 鹿屋市 祓川 5204番地3 (電話) 0994-40-3151		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市 星ヶ峯四丁目 2番6号		
訪問調査日	平成21年12月22日	評価確定日	平成22年1月16日

【情報提供票より平成21年12月2日事業所記入】

## (1) 組織概要

開設年月日	平成13年7月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤 7人	非常勤 2人 常勤換算 7.7人

## (2) 建物概要

建物構造	木造モルタル 造り		
	1階建ての 1階部分		

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800円		

## (4) 利用者の概要 (12月2日現在)

利用者人数	9名	男性 3名	女性 6名
要介護1	3名	要介護2	0名
要介護3	1名	要介護4	4名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 82歳	最低 75歳	最高 97歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	池田病院	大隅鹿屋病院	おばま病院	辻畑歯科医院
---------	------	--------	-------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道沿いの田園の中にあつて、遠くは高隅山を望み、近隣には医療機関・特別養護老人ホーム・老人保健施設があり、医療・福祉との連携が万全である。現在地の近くにグループホームを新築中である。現在、入居者9名中、車椅子利用者が4名おられ、家庭的な雰囲気の中でその人の気持ちになつての支援に、本人や家族からも喜ばれ、安心して暮らしている。代表者や管理者の福祉に対する真摯な取り組みがうかがえる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスとしての理念について、地域との交流をはかり、愛され貢献できるようにとの理念を作り上げて改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価への取り組みは、項目ごとに職員が担当した上で、全員で検討するなどして、ケアの向上につながつた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は民生委員や家族代表・地域包括支援センター職員等の参加があり、そこで現況報告や外部評価の結果報告等を行い、それについての意見を聞き、サービスの質向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等の面会時や家族会等で意見や要望を聞くように心がけ、申し送り帳を全職員が見るようにしており、意見や要望を共有し運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、祭りや運動会・除草作業等の地域での行事に参加し、また保育園児の訪問などがあり、地域住民との交流に努めている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域住民との交流を図りながら、地域に愛され貢献できるように」との理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼で、全員が理念を唱和し、理念の実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、祭りや運動会・除草作業等の地域での行事に参加し、また、保育園児の訪問などがあり、地域住民との交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者をはじめ、全職員が自己評価及び外部評価を実施する意義をふまえて、その過程や結果を活かして改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は民生委員や家族代表・地域包括支援センター職員等の参加があり、そこで現況報告や外部評価の結果報告等を行い、それについての意見を聞き、サービスの質向上に活かしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所の担当者が地区グループホーム勉強会に出席したり、ホーム側も報告書類等を持って行き来している。また諸問題があった時は、指導を受けながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、ホームでの暮らしぶりや健康状態などを手紙で報告したり、年4回発行する「ゆうきの里新聞」でも行事の様子等を掲載している。面会時には近況報告や金銭出納帳の確認をしてもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の面会時や家族会等で意見や要望を聞くように心がけ、申し送り帳を全職員が見るようにしており、意見や要望を共有し運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は少なく、部屋担当者を決めて、馴染みの支援を受けられるようにしている。また入職時のマニュアルで、それに基づいた教育をしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は段階に応じて、交代で外部研修に参加しており、事業所内での勉強会の機会も設けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は鹿屋地区グループホームの勉強会やイベントに参加し、同業者との交流を通じたサービスの質の向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望がある時は、本人や家族に事業所に来てもらったり、体験入居もできるようにしており、場の雰囲気に徐々に馴染んでもらえるようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者を人生の大先輩であるとの意識を持ち、日々の生活の中で、そばの作り方やだんごの作り方などを教えてもらっている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりのなかで、一人ひとりの希望や所作で把握に努めるように心がけている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族・必要な関係者と話し合い、意見や要望を聞き、ケース会議等で検討しながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3カ月ごとに見直しを行っているが、入居者の状況に変化が生じた場合は、本人・家族・必要な関係者と話し合いを行い、現状に即した新たな介護計画を作成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じて、医療機関への送迎や墓参り・買い物・自宅への一時帰宅等、多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人や家族からかかりつけ医を聞き、入居してからも希望する病院での受診ができるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現状では、重度化や終末期の対応は、かかりつけ医や協力病院での治療を家族が希望している場合が多く、その時は医師等と話し合い、職員も共有している。	○	重度化や終末期に於けるホームでの方針を検討することが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者の尊厳を守り、言葉使いや対応について、日常心がけており、個人情報の取り扱いにも注意をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には業務の流れに沿ってのケアをしているが、入居者それぞれのペースや希望に合わせた支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえ・テーブル拭き・下膳等、入居者と職員が一緒に行い、会話も弾み、楽しい食事時間を過ごしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応は入浴日を決めているが、いつでもシャワー浴などができるようにしている。また一人ひとりの体調や希望に合わせて支援をしている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者それぞれの力量に合わせて、洗濯物たたみや皿洗い等をしたり、時には外食やドライブに行き、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩やドライブ・花見・事業所内の庭園での食事・外食にも出かけるなど、戸外に出かけられるよう支援をしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけないようにしている。入居者に寄り添って職員が一緒に出かけたり、近隣の協力も得ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回は消防署の協力で、火災・避難・夜間想定訓練を行っている。各居室のドアには避難誘導にあたっての印がついている。また、非常食・飲料水の備蓄もしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事・水分摂取量をチェックしている。代表者が栄養士であるので、栄養バランスについて支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは天井が高く造られており、広い窓からは田園風景が眺められ、生活感や季節感が味わえ、ゆったりと居心地良く過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具類や家族の写真が飾られ、居心地良く過ごせるような工夫がしてある。		

※  は、重点項目。